



シリーズ

武雄の治水

vol.36

～水と共に生きるまちへ～

今回のテーマは

広田川排水機場

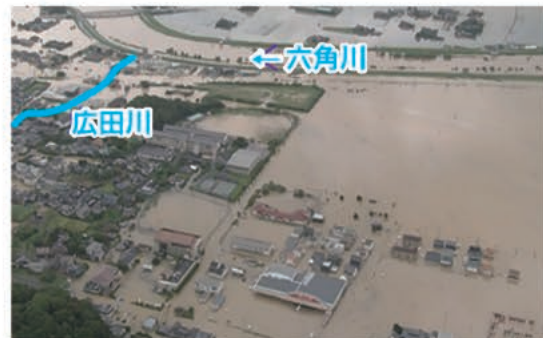
令和4年10月から工事が進められてきた広田川排水機場が、令和7年3月に完成しました。今回は、その施設について紹介します。

これまでの経緯

広田川は、北方小学校東側の住宅地を流下する河川です。

令和元年、令和3年の豪雨時には内水氾濫が発生し、周辺地域では甚大な浸水被害が発生しました。

広田川排水機場整備事業は、令和元年8月豪雨災害を受け採択された「河川激甚災害対策特別緊急事業」の一つであり、佐賀県による事業です。令和7年3月に工事が完了し、運転が可能な状況となりました。



▲令和元年の浸水被害の様子(北方町)

どのような役割？

六角川(本川)と広田川(支川)の合流点には樋門と呼ばれるゲートが設置されており、大雨時に本川の水位が支川より高くなる場合には、ゲートを閉めて本川からの逆流を防いでいます。

しかし、ゲートを閉めた場合、大雨時には支川の水位が上昇し、内水氾濫による浸水被害が発生していました。

広田川排水機場は浸水被害を軽減させるために、周辺の雨水を強制的に排水する施設です。



▲排水ポンプや操作盤が立ち並ぶ様子

施設の特徴

今回整備された排水機場には、毎秒1㎡のポンプが5台備えられ、**最大で毎秒5㎡の排水能力を有します。**

また、敷地が浸水してもポンプが稼働し続けることができるよう、ポンプの耐水化や機器の高所設置などの対策が施されています。

毎秒5㎡の排水能力ってどれくらい？

5台のポンプを全て稼働させると、一般的な学校の25mプールを**約1分で空にできる能力**となります。



今回の工事により、周辺道路の冠水の防止や、内水被害の軽減が期待されます。

詳しくは まちづくり部 治水対策課 ☎0954-27-7097

シリーズ武雄の治水 排水機場のしくみはこちらから▶

